※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０２４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	(学)日本史セミナー②	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	山川出版社「詳説日本史」						
副教材等	帝国書院「図説日本史通覧」　啓隆社「新日本史研究ノート応用編」 山川出版社「日本史用語集」						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸に対しての感覚を養ってもらいたい。
・歴史的事象に「なぜ」という視点を持ってもらいたい。
・歴史を背景とした世界各国の諸事情を踏まえ、日本の在り方について考察を深めてもらいたい。

2　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせるとともに、課題発見・解決活動を通して、広い視野に立ち､国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
（１）世界史的な視野に立ちながら、日本の歴史を国際環境と関係づけながら考察する。
（２）諸資料をもとに歴史事象についての考察を深める。
（３）時代的背景として政治、経済、文化、対外関係など総合的な歴史的思考力を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けているか。	開国以前と以後の日本を比較し、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程を国際環境と関連して考えることができているか。	近現代史を中心とする日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する公民としての責務を果たそうとしているか。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	第11章　近世から近代へ	第１節　開国とその影響 ①開国の衝撃を契機とした幕府の対外政策の変容と、締結された条約の不平等性について考察する。 ②貿易の実態と、国内におよんだ影響からくる経済の混乱について考察する。	a：条約や貿易開始に関する諸資料から適切に情報を読み取り、幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯や、貿易の影響などを理解している。 b：欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化に着目し、日本の政治や経済などの変化を多面的及び多角的に考察し、表現している。 c：日本の開国に関わる諸事象を、国内外の視点から考察し、開国のもたらす様々な影響について主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート
		第２節　幕府の滅亡と新政府の発足 ①討幕派の形成から新政府の発足に至るまでの過程を理解し、明治新政府による中央集権体制の確立過程について考察する。	a:政治・経済の変化などに着目し、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊から新政府の成立に至るまでの過程を理解している。 b:日本がどのように近代の国家・社会へと向かっていくか、時代を通観する問いを表現している。 c:幕末の政治動乱の過程を多面的かつ多角的に考察することを通じて、近代へのつながりを主体的に見出そうとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート

※令和４年度以降入学生用

	第12章 近代国家の成立	第１節　明治維新 ①明治維新の諸政策に関し、政治・外交・社会経済の観点から日本の近代化の特徴について考察する。 ②欧米文化の模倣、思想の導入や日本の近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論による闘争への転換を理解する。 ③明治初期の外交政策から、対欧米外交と、対東アジア外交の違いについて考察する。	a：明治政府による近代化政策について、諸資料から情報を読み取って理解している。 b：諸制度の改革による市民生活の変化や、諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想や文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c：明治維新や文明開化が展開する中で生じた様々な課題や、近代化政策の展開における課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート
		第２節　立憲国家の成立 ①自由民権運動の内容を理解し、民衆意識の変化、また運動の移り変わりや地域社会の変化について考察する。 ②大日本帝国憲法制定の意義や憲法の特徴を、多角的に考察する。	a：地域社会の変化につい諸資料から読み取り、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至るまでの過程を理解している。 b：社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：自由民権運動の展開過程を考察し、そのうえで日本における立憲政治の導入による課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 ノート提出
	第13章 近代国家の展開と国際関	第１節　大陸政策の展開 ①条約改正交渉の経緯と国内世論の動向が国民の大きな関心を集めた背景と、条約改正が実現した諸条件について考察する。 ②日清戦争に至る経緯及び過程と結果が国民におよぼした影響について考察する。 ③日英同盟から日露戦争に至る経緯、戦後の日本の国際的地位の変化と対外進出について、その問題点とともに考察する。	a：条約改正交渉の成否、条約改正の実現、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 b：議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、表現している。 c：対外的な戦争が日本の近代化の過程においてどのよう	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 ノート提出

※令和４年度以降入学生用

	係		な意味を持ったか考察し、主体的に追究しようとしている。			
		第2節　第一次世界大戦と日本 ①第一次世界大戦前後の国際関係について、日本に対する各国の反応とその後の展開について考察する。 ②大正政変、大正デモクラシーと本格的な政党内閣の成立の経緯を理解し、国民の政治参加の拡大について多角的に考察する。	a：第一次世界大戦前後の国民の政治参加に着目して、大正政変から政党内閣の成立について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 b：大戦中の日本の動向を踏まえ、アジアや欧米諸国との関係の変容の是非を多面的・多角的に考察し、表現している。 c：対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、国際協調体制へのつながりを追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 ノート提出
		第３節　ワシントン体制 ①ヴェルサイユ体制と、ワシントン体制の内容を捉え、国際協調の動きを理解し、そのなかで日本の外交政策がどのように展開されたか考察する。 ②大戦景気後に続いた不況のなかで社会運動が高揚し、普選運動など政党政治の発展から二大政党による「憲政の常道」に至るまでの意義について考察する。	a：ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や東アジアの民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 b：大戦後に国民の権利拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：東アジア及び太平洋地域における国際協調体制を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 ノート提出

※令和４年度以降入学生用

	第14章 近代の産業と生活	第１節　近代産業の発展 ①資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう諸問題の発生と、政府の対応や労働運動の展開を考察する。	a：諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題につながったことを理解している。 b：地域社会の変化が産業全般の変化につながったことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：産業の発展と社会問題への対応について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 提出ノート
		第２節　近代の文化 ①西洋文化と伝統的な文化が接触し近代文化が成立したことに着目し、欧米思想の影響や生活の変化について考察する。 ②義務教育の普及及び定着が国家主義的傾向の浸透につながることを理解する。	a：国家主義的な思想の形成、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。 b：学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。 c：政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 提出ノート
		第３節　市民生活の変容と大衆文化 ①大衆社会の基盤の成立に着目し、産業構造の変化や大衆文化の特色について考察する。 ②大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。	a：大衆文化の発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わり社会風潮との関連を理解している。 b：都市化と大衆化の発達などを踏まえ、市民生活と地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：マスメディアや教育の充実によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 提出ノート

※令和４年度以降入学生用

	第15章 恐慌と第二次世界大戦	第１節　恐慌の時代 ①戦後恐慌以来の長引く不況から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内･国外の経済状況に着目して理解する。 ②内外情勢の変化に着目し、強硬外交の展開や、統帥権干犯問題に直面した経緯などについて考察する。	a：相次ぐ恐慌の具体的な内容や、国内の経済対策と経済の動揺などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。 b：ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向について考察し、それらの経緯を適切に表現している。 c：資料から世論の動向を読み取ったり、様々な人びとの議論について考察し、課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 提出ノート
		第２節　軍部の台頭 ①日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目し、政党内閣崩壊及び国際的孤立の過程について理解する。 ②恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。	a：政治･経済体制の変化に着目して、満洲事変に関する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。 b：満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 c：満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、第二次世界大戦への流れを主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 提出ノート

※令和４年度以降入学生用

		第３節　第二次世界大戦 ①日中戦争から太平洋戦争に至る過程や戦争の長期化について、国民生活の実態や国家による統制に着目して、全体主義的な国家体制が進展していく経緯を考察する。 ②太平洋戦争の開戦に至る日米関係や戦争の展開、終戦までの経緯について、国民生活への影響や国際情勢を踏まえて具体的に考察する。	a：太平洋戦争開戦までの推移と国民生活への影響などに着目し、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。 b：戦争が連合国との戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 c：日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察し、そのうえで第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 提出ノート
	第16章 現代の世界と日本	第１節　占領下の改革と主権の回復 ①非軍事化と民主化を目的とする占領政策が、その目的に沿ってどのような政策が展開されたのかを理解し、諸政策がその後の日本社会にどのような影響をもたらしたのか、考察する。 ②国際情勢の変化と関連づけて、アメリカが日本の国際社会への復帰を推進し、日米安全保障条約による新たな日米関係が成立したことを考察する。	a：大日本帝国憲法体制と日本国憲法体制の根本的な違いや、政治及び社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 b：占領前後の社会や思想・文化などを史料などから比較・考察し、その結果を適切に表現している。 c：連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革が形成した社会の枠組みと現代の日本との関係性を踏まえながら、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 提出ノート

※令和４年度以降入学生用

		第 2 節 55 年体制と高度経済成長 ①冷戦構造のなかで日本が国際社会に復帰したことについて、諸外国との関係に着目し、独立回復後の日本の動きを考察する。 ②朝鮮特需と高度経済成長政策の下で、日本社会が大きく変貌したことの反面、公害などの社会問題が発生したことについて考察する。	a: 保守合同による自由民主党の成立から、保守政権の誕生に至る経緯や、戦後の日本経済の成長や、国際社会における日本の役割などについて、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 b: 外交がもたらした課題や日本の経済復興や高度成長、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c: 55 年体制の歴史的意義や、1960 年代における保守政権の安定化を考察し、高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返り、現代日本のあり方について主体的に追及している。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート
		第 3 節 現代の情勢 ①目まぐるしく変貌する国際情勢の下、日本が中国との国交正常化を実現し、高度成長路線を修正しながら引き続き経済成長を維持しようとしたことについて考察する。 ②1980 年代末以降、冷戦終結によって、東欧を中心に大きな変動がおこり、国際政治の枠組みが大きく変化したことを理解する。 ③日本は深刻な不況が長引き、環境問題やエネルギー問題などさまざまな解決すべき問題を抱えていることについて考察する。	a: 世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったこと、冷戦終結後の国際関係、政治及び経済状況などについて理解している。 b: 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因や、様々な国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c: 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、様々な課題を見出して主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度